

URA 四機関連携

エリアマネジメント・インスパイア・シンポジウム

(2024/3/7)

報告へのコメント・ディスカッション
—都市社会学からみえるもの—

立教大学社会学部
西山志保
(snishiyama@rikkyo.ac.jp)

自己紹介

- 西山志保
- 立教大学社会学部 教授
- 専門領域：地域社会学、都市社会学、コミュニティ再生

研究テーマ

- まちづくり、都市ガバナンスの国際比較研究（英米）
- NPO,市民事業体、社会的企業など、市民セクターによるコミュニティ形成の事例分析
- 官民連携による地域再生

石澤報告へのコメント

1. 労働者協同組合という**担い手の主体性**をベースにした参加形態
メンバーの出資に基づく経営・運営という参加者の自主性を引き出す、
ベースが地縁組織、農協など、行政の支援もあり、小規模団体の立ち上げ

2. 潜在化する**ニーズの可視化**（ソフト面での組織論中心）

エリマネ議論は、ハード中心になりがち。ソフト面でどのような担い手を想定するか→広島事例は、高齢者雇用創出などの地域ニーズを可視化し、まちづくりの具体的政策につなげるヒント

3. 過度な「**空間の商業化**」への抵抗

エリマネによって、見込まれる「土地の価値上昇」がビジネス価値だけでなく、「生活の価値上昇」につながる必要性を示唆

エリアマネジメントに関する諸課題

- ・ 組織のマネジメントが優先され、地域ニーズの発見から乖離
- ・ 多様なステークホルダー間の合意形成の難しさ
- ・ 運営事業者と行政、住民との役割分担をどのようにするか
(ガバナンスの問題)、
- ・ 魅力的できれいな「商業空間」 vs 「公益性」、排除される人々

- ①公共空間として「公益性」をいかに担保する仕組みをつくるか
- ②authenticity（その地域らしさ）の創出という発想の導入
- ③組織間のネットワークングを図る

事例分析における論点：豊島区南池袋公園

- エリマネにおける「公益性の担保」を民主的なコントロールによっていかに実現するか
- エリマネにおける「ステークホルダーの合意形成」 = **公共的**理念を創出する都市ガバナンスの在り方を検討

南池袋公園の事例分析

- ・ 池袋東口から徒歩5分
- ・ 昭和50年に有楽町線の工事に伴い再整備された。
- ・ 路上生活者が多く集まる炊き出し公園のイメージが大きく変化
- ・ 民間事業者を公園運営に組み込み、「南池袋公園をよくする会」という運営組織を設立している点に大きな特徴



第1段階

(2009~2012)

変電所の移設と合意形成の難しさ

- 東京電力から、公園地下に変電所を移設させてほしいという要望、リニューアル費 = 復旧費 + 工事現場占有料で賄う、営団地下鉄の占有料などの収入見込める
- 公園をどのようにしていくか、地域住民とワークショップを重ね、計画案を策定
- 町会（静かな環境を望む）VS 商店会（賑わい創出）VS 寺町関係（静かな環境を望む）の意見が相反、住民意見も多様 → 合意形成が困難
- 住民、PTA、寺町、行政、商店会、皆、路上生活者が戻ることは否定的だが、それ以上の期待がない → 「公園空間のイメージ」の共有が全くない

第2段階

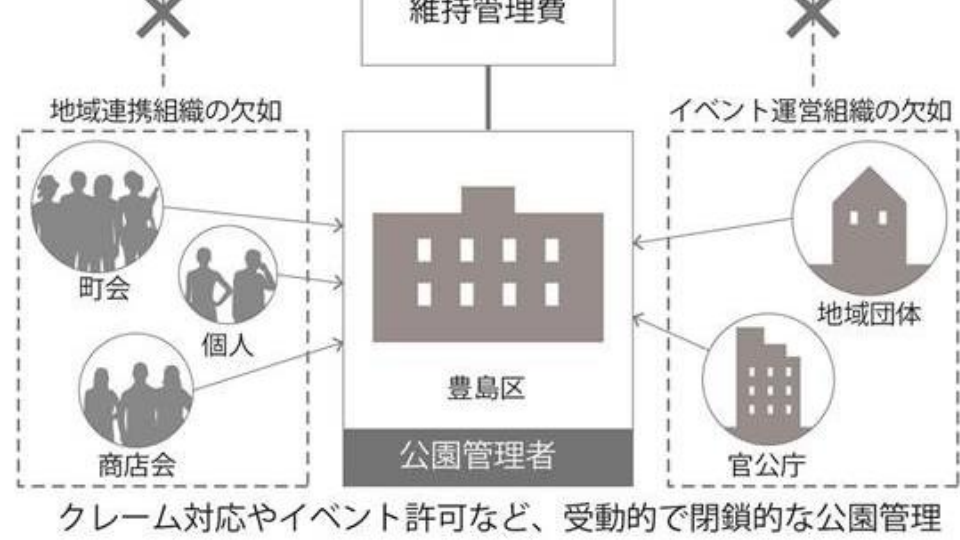
(2012~2015)

専門家による

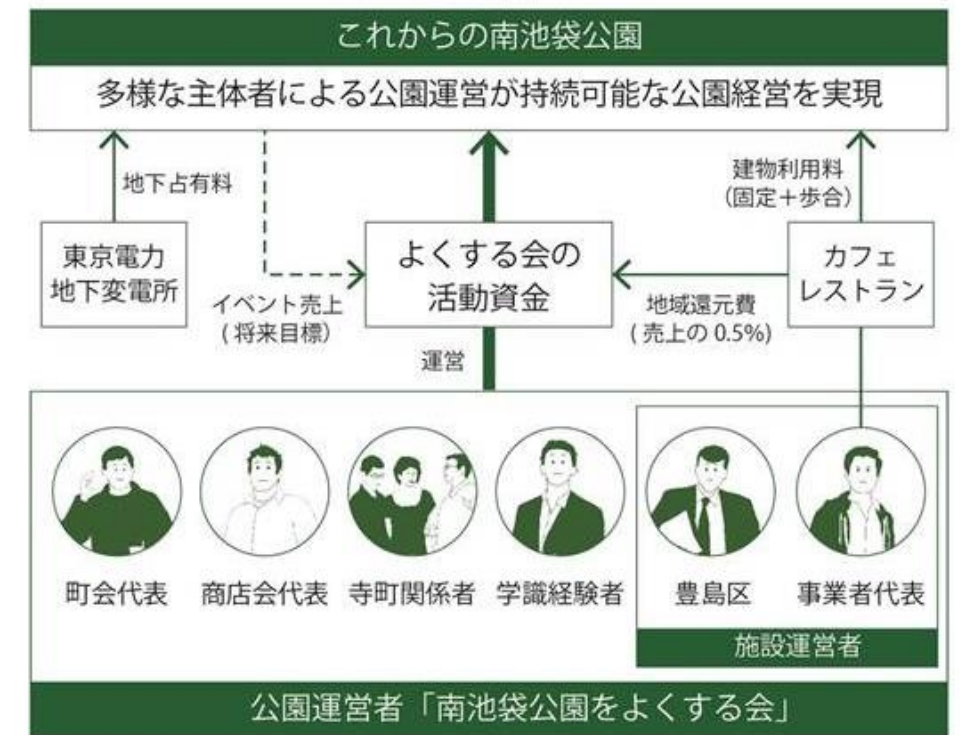
「ローカル価値」
の創造としくみづくり

- 前区長がランドスケープの専門家（第3者）に総合プロデュース、取りまとめ依頼
- 「公共空間の創出+しくみづくり」を同時実施。公園にカフェ（事業者）を入れることへの大反対（住民、商店会）
- 地域貢献・地域精通度などを加味して地元のカフェを選定
- 住民や議会の賛同得る難しさ、行政の態度も変化（管理→くつろぎ空間の運営という視点へ）
- そこで「三者一体（行政+事業者+住民）マネジメント組織」の提案→南池袋公園をよくする会の設立

「南池袋公園をよくする会」の設立



- 南池袋公園をよくする会メンバー
- 寺町関係（周辺地権者代表）現在会長
- 町会関係（池袋東口親和会）
- 商店会関係（南池袋パーク通り商店街）
- 当初は専門家（空間コンサルタント）初代会長
- 行政（豊島区公園緑地課）
- 事業者（ラシーヌ：株グリップセカンド）
- 月1回、公園利用者の意見を聞く、①イベント開催の際は「会」の承認を必要とする→区に上申できる、②公園のルールづくり、運営上の課題共有、③イベントの企画・実施
- 出典https://project.nikkeibp.co.jp/mirakoto/atcl/city/h_vol15/



地域貢献や地域イベント実施など、能動的で開放的な公園運営

第3段階

(2016~現在)

事業ベースVS.
公共ベースの対立

- 事業者を公園運営に入れることに反対していたメンバーVS.事業者（営利重視）の対立
- 公共ベース（芝生を守る）VS. 事業ベース（賑わい利益創出）の対立
- 「稼ぐ公園」が抱えるジレンマ
- イベント内容、公有地でやるイベントとしてふさわしいかどうかを判断、豊島区に上申
- 「よくする会の役割 = 「方向性がぶれないように大きなブレーキを踏むこと」 + 文化芸術的な部分をできるようにしてイケブクロらしさをだす
- 思いの違いは同じようにはならない、「公園をよくする」というところに結実すればいい

理念を伴うエリマネの実現に向けて

- ・地域の多様なステークホルダーが「土地の価値」のみならず、「**生活の価値**」という**立場**から意見を出せる場の重要性（潜在化するニーズの拾い上げ）
- ・事業ベースと公共ベースの対立を調整する中間組織の存在（合意形成ではなく、「**オーセンティシティ**」（**その地域らしさ**）という**理念**、**エリアに対する思い・イメージの共有化**）
- ・「**公益性**」を担保する都市ガバナンスのためには、地域マネジメントのルール作りだけでなく、**事業者、地域住民や行政、地縁組織**など、**理念を共有する人々による自律的組織**が重要である